

# 同 志 社 大 学

## 2011 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2011 年 3 月 9 日提出

所 属	職 名	氏 名
心理学部	教授	青山謙二郎
研 究 題 目	心理・環境要因が食行動に及ぼす効果の総合的検討	
研 究 成 果 の 概 要	<p>食行動において心理要因は重要である。食行動は単に機械的に栄養不足を補うだけでなく、学習や社会的状況（文化や他者が存在するかどうか）、さらに現在の刺激状況（テレビを見るかどうかなど）などの環境要因の影響を強く受ける。その統合的な解明を実験と調査により試みた。</p> <p>その結果、ラットを対象とした実験において、栄養のある食物を摂取する時に存在した環境刺激が、学習を通しての後の摂取量の増加を促すことが判明した。</p> <p>また、人間を対象とした研究では、食物を摂取する自らの行動を具体的に想像することで、食行動の傾向に変化が生じることが見出された。これらの成果は、Association for Behavior Analysis などにおいて発表される予定である。</p>	